

その他の公的貸付制度

奨学金や教育ローン以外にも、教育資金を貸し付ける福祉制度があります。また、お住まいの行政によって、独自の支援制度を作っているところもあります。民間のキャッシングやローンを借りる前に、まずは行政などに、独自の奨学金や教育資金の貸付がないか調べてみるのも良いでしょう。

■母子父子寡婦福祉資金貸付金

ひとり親家庭のための貸付金制度です。教育目的としては「修学資金」と「就学支度資金」があります。審査及び交付に時間がかかります。入学直前の相談・申込は、貸し付けが間に合わない場合がありますので、進路が決まったら早めに行政の福祉担当窓口にお問い合わせましょう。

修学資金

貸付対象：母子家庭・父子家庭の児童、父母のない児童等

目的：高校、短大、大学、大学院、高等専門学校または専修学校に修学させるための授業料、書籍代、交通費等に必要な資金及び大学等の課外活動費、生活費（自宅外通学）等

貸付限度額：（令和2年）月額 P.23 参照

貸付期間：在学期間中

据置期間：当該学校卒業後6ヶ月

償還期限：20年以内

利子：無利子

保証人等：親に貸付ける場合は児童を連帯借受人とする（連帯保証人は不要）
児童に貸付ける場合、親等を連帯保証人とする。

就学支度資金

貸付対象：母子家庭・父子家庭の児童、父母のない児童等

目的：入学するために必要な資金（受験料、入学金、制服代など）

貸付限度額：（令和2年）P.23 参照

据置期間：当該学校卒業後6ヶ月

償還期限：20年以内 専修学校（一般）は5年以内

利子：無利子

■社会福祉協議会の生活福祉資金貸付制度

低所得世帯は、社会福祉協議会の生活福祉資金貸付制度が利用できます。教育支援資金には月々の「教育支援費」と、入学時の「就学支度費」があります。

教育支援費

貸付対象：低所得世帯（市町村民税非課税程度）等

目的：低所得世帯に属する者が高校、高等専門学校、短大、大学、専門学校に就学するのに必要な費用（授業料等）

貸付限度額：高校は月3.5万円以内、高専・短大・専門学校は月6万円以内、大学は月6.5万円以内 ＊特に必要と認める場合は上記各限度額の1.5倍まで貸付可能

据置期間：当該学校卒業後6ヶ月

償還期限：20年以内

利子：無利子

就学支度費

貸付対象：低所得世帯（市町村民税非課税程度）等

目的：前述の学校に入学する際に必要な入学金（入学時のみ対象）

貸付限度額：50万円以内

据置期間：当該学校卒業後6ヶ月

償還期限：20年以内

利子：無利子

図 20 修学資金貸付限度額（令和 2 年度）

学校等種別		貸付額・月額	
高等学校 専修学校（高等課程）	国公立	自宅通学の時	27,000 円
		自宅外通学の時	34,500 円
	私立	自宅通学の時	45,000 円
		自宅外通学の時	52,500 円
高等専門学校	国公立	自宅通学の時	31,500 円
		自宅外通学の時	33,750 円
	私立	自宅通学の時	48,000 円
		自宅外通学の時	52,500 円
専修学校（専門課程）	国公立	自宅通学の時	67,500 円
		自宅外通学の時	78,000 円
	私立	自宅通学の時	89,000 円
		自宅外通学の時	126,500 円
短期大学	国公立	自宅通学の時	67,500 円
		自宅外通学の時	96,500 円
	私立	自宅通学の時	93,500 円
		自宅外通学の時	131,000 円
大学	国公立	自宅通学の時	71,000 円
		自宅外通学の時	108,500 円
	私立	自宅通学の時	108,500 円
		自宅外通学の時	146,000 円
専修学校（一般課程）		49,500 円	

図 21 就学支度資金貸付限度額（令和 2 年度）

	小学校	中学校	国公立高校	私立高校
自宅通学	64,300 円	81,000 円	150,000 円	410,000 円
自宅外通学			160,000 円	420,000 円

	国公立大学 短大 専門学校	私立大学 短大 専門学校	修業施設	国公立 大学院	私立 大学院
自宅通学	410,000 円	580,000 円	272,000 円	380,000 円	590,000 円
自宅外通学	420,000 円	590,000 円	282,000 円		

●ポイント

1 貸付金の活用は「無利子優先」有利子の場合は「低利優先」

2 借りすぎに注意

教育や福祉目的のお金といっても「借金」です。借りたお金は、しっかりと返さなければなりません。予定通りに返済できないまま放置しておく、延滞金がついたり、保証人に取り立てが行ったり、ブラックリストにのってクレジットカードが作れなくなる可能性もあります。「無利子だから」と必要以上に借りることはせず、アルバイトなどもうまく組み合わせ、借りる額は必要最低限を心がけましょう。